

# 第1学年2組 道徳科学習指導案

日時：令和4年12月9日（金） 第2校時

場所：1年2組教室

授業テーマ	親切にされた時の登場人物の心情の変化について考えていくことを通して、親切にすることのよさに気づき、身近な人たちに温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる授業。
-------	--

1. 主題名・教材名 やさしい ころ (B-6 親切 思いやり) 「はしの うえの おおかみ」
2. 主題のねらい 他者が喜ばば自分もうれしくなる心が思いやりのもとであることが分かり、思いやりの心をもって生活しようとする。

### 3. 主題設定の理由

本指導内容は、よりよい人間関係を築く上で求められる基本姿勢として、相手に対する思いやりの心を持ち親切にすることに關するものである。低学年の子どもたちは、小学校生活が始まることで、家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などのかかわりが増えてくる。発達特性から自分中心の考え方をすることが多いが、相手の考えや気持ちに気付くこともできるようになる。そこで、さまざまな人々とかかわりの中から、相手の考えや気持ちに気づき、優しく接することができるようになることが求められる。また、自ら親切な行為ができるようになることが大切である。子どもがさまざまな人々とかかわり合って生活していく中で、相手の立場を考えたり気持ちを思いやったりすることを通して、思いやりや親切な行為の意義を実感し、誰に対しても温かい心で接することができるように指導していく必要がある。

本学級の児童は、さまざまな行事や学習に友達と取り組み、楽しく学校生活を送っている。1学期の国語科の「はをへをつかおう」の学習では、「は・を・へ」を使い文章を作る課題につまずいている子に親切に声をかけている児童がいた。教師が賞賛すると、児童がお互いに声をかけ助け合うよさを感じられるようになり、問題に対し悩んでいる友達に寄り添い「こうやるんだよ。」と親切に教え協力して楽しく学習に取り組んでいた。日常生活では、休み時間の会話や授業中の話合いを通して、児童同士の距離感が縮まり交友関係を深めている。友達が困っている時には、「どうしたの？」と声をかけ寄り添う姿が見られ、友達への思いやりの気持ちをもちはじめている。その一方で、友達に対して強い言動をしてしまったり、自分勝手な言動をしてしまったりする児童がいる。当番の仕事では、自分の仕事に進んで活動する児童もいるが、別のことに夢中になり、忘れる児童もいた。その児童に対して強い言葉で伝えてしまうといった実態がある。そこで、自分のことだけを考えるのではなく、相手の気持ちを考えて、思いやりのある行動を受けたときの嬉しさを感じられるようにしていく。そして、親切にすることのよさや嬉しさを感じながら、どんな人に対しても親切に思いやりのある行為をしようとする心情を育てていきたい。

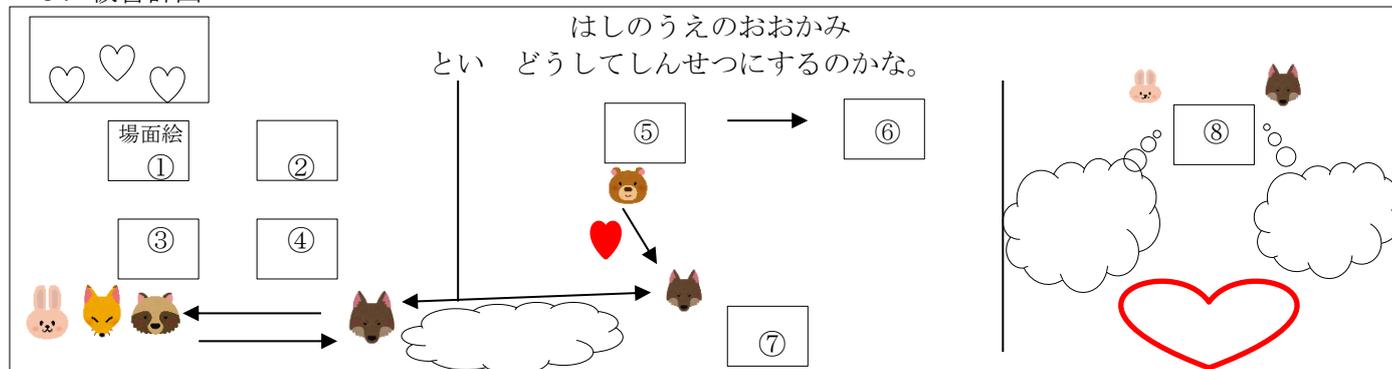
本教材は、主人公のおおかみが、一本橋で出会ったうさぎ、きつね、たぬきたちを相手に面白がって意地悪を続けるが、くまの思いやりのある優しい心に触れ、これまでの弱い者に対して卑下する心、自己を誇示しようとする心から生まれた意地悪な自分の行動を振り返る。そして、うさぎに対して、くまと同様の親切な行動をするようになるという内容である。くまの親切な行動に心を打たれ、自分もうさぎたちに温かい心で接するようになったおおかみの心情の変化について話し合うことを通して、思いやりの心で接することでお互いが嬉しい気持ちになることに気づかせたり、身近な人にさらに親切にしようとする意欲を持たせたりするのに適した教材である。

指導にあたっては、動物たちに意地悪をするおおかみと、くまに親切にされたおおかみの心情を比べることから、「親切にすることのよさ」に気づかせ、親切にしようとする心を育みたい。そのために、板書では、矢印や吹き出しを使って登場人物の心情を視覚的に読み取れるようにし、お話の最初と最後でのおおかみの気持ちの変化に注目することができるようにする。また、役割演技を取り入れたり、教材の絵を動かしたり貼ったりしながら教材を読み進めていったりすることで、児童が最後まで教材に興味を持って親切について考えることができるようにする。

### 4. 指導計画

- (1) 事前指導…親切から思い浮かぶ言葉をあつめることで、意識付けを図っておく。
- (2) 本 時…教材をもとに、「親切、思いやり」の道徳的価値の大切さについて考え、多角的に理解する。
- (3) 事後指導…帰りの会のありがとう発表で、見つけた親切やされた親切を称賛し、道徳的実践意欲と態度を育む。

## 5. 板書計画



## 6. 授業テーマに迫るための手立て

- (1) 役割演技を通して、おおかみの心情の変化について、多様な考えを引き出すことができるようにする。(手立て1)
- (2) ワークシートや学級写真などを活用して、自分事としてとらえさせることができるようにする。(手立て2)

## 7. 学習過程

段階	学習内容・活動	時間	○指導上の留意点 ※手立て ◆評価
気付く	<p>1 親切とは何かを考え、本時の問いをつかむ。</p> <p>とい どうしてしんせつにするのかな</p>	5	<p>○事前に、親切というテーマから思い浮かぶ言葉を集めておくことで、子どもたちに親切という言葉の意味や行動を意識づけることができるようにする。</p> <p>○親切は大切なのか、必ず親切にしなければならないのかを問うことで、本時の問いにつなげる。</p>
見つける	<p>2 「はしのうえのおおかみ」を読み話し合う。</p> <p>(1) 「はしのうえのおおかみ」の前半の話を聞き、おおかみと他の動物たちの心情をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじわる</li> <li>・いじめて楽しい</li> <li>・ひどい</li> <li>・いばってる</li> </ul> <p>(2) 資料「はしのうえのおおかみ」のなかばの話を聞き、くまの行動から、おおかみの心の変化を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしい</li> <li>・やさしいな</li> <li>・反省した</li> <li>・いじわるされると思った</li> <li>・うさぎにもしてあげたいな</li> </ul> <p>◎ずっとずっとくまの後ろ姿を見ていた おおかみは、どんなことを考えていたかな。</p>	25 5 10	<p>○登場人物を確認するためにペープサートを活用することで、話の内容をつかみやすくする。</p> <p>○児童が発言した登場人物の思いや行動を矢印や吹き出しを使って板書に整理することで、話の内容や登場人物の心情を全体で共有することができるようにする。</p> <p>○おおかみとくまの行動について役割演技を取り入れることで、おおかみの心情の変化についての多様な考えを引き出すことができるようにする。(手立て1)</p> <p>○見ていた子どもたちに「なんと言ったか」、演技をした子どもに「どんな気持ちでそう言ったのか」を問うことで、演技をした子どもだけでなく、全員が考えることのできる場面をつくる。</p> <p>○全体で話し合う活動を取り入れることで、くまの思いやりの心に触れたことによって、おおかみがくまの親切に気づき心が動いたことをおさえる。</p> <p>○うさぎを通してあげたとき、どうして前よりもずっといい気持ちになったのかを問うことで、相手を思いやる気持ちがあることに気付かせる。</p>
振り返る	<p>3 ワークシートにより、親切について自分の生活を振り返り、これからに生かせることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室につれて行ってあげたい</li> <li>・困っているときに助けてあげたい</li> <li>・お手伝いをしたい</li> </ul>	15	<p>○日常生活の親切につながる写真を提示することで、教材と子どもの経験をつなぐことができるようにする。また、なかなか振り返ることのできない子どもには、いいこと貯金を紹介したり、さらに日常生活の場面を写真で紹介したりすることで、これまでの自分を振り返ることができるようにする。(手立て2)</p> <p>◆相手が喜ぶと自分も嬉しいという思いやりの心から、親切にすることが分かる。(発言・ワークシート)</p>

授業テーマ	思考ツールを活用した話し合いを通して、多面的・多角的に考えさせ、相手のことを考えて進んで親切にしようとする心情を育てる授業。
-------	--

1. 主題名（価値）教材名 思いやりの心で（B-7 親切, 思いやり）「ぐみの木と小鳥」（光文書院）
2. 主題のねらい 困っている人を思いやり、相手のことを考えて、親切にしようとする心情を育てる。
3. 主題設定の理由

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。低学年の児童は、小学校生活が始まることで、家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などとの関わりが増えてくる。発達特性から自分中心の考え方をすることが多いが、相手の考えや気持ちに気付くこともできるようになる。そこで、様々な人々との関わりの中から、相手の考えや気持ちに気づき、優しく接することができるようになることが求められる。しかし、相手の立場や状況によっては自分の気持ちを優先してしまい、親切にできないこともある。だからこそ、相手の気持ちを考えて親切にできた時や、そうしなくてもできなかった時の気持ち、また親切にされた時の気持ちを考えることで、相手の気持ちを考えて親切にできる大切さに気付いていく。

本学級の児童は、学習や生活の中で、友達が困っていたら声をかけ、助けようとする姿が増えてきた。係り活動や当番活動、集会活動を通して、友達と声を掛け合い、思いやりをもって取り組むことができるようになってきた。一方で親切にしてあげたいという気持ちはあっても、休み時間に外で遊びたい時などには、自分の興味・関心を優先させてしまい、困っている友達に対し、見て見ぬふりをしたり、自分と関わりが少い人に対しては無関心になったりする姿も見られる。そこで、相手のことを考えながら温かい気持ちで接したり、親切にしたりすることの大切さについて、具体的に考えさせていく必要がある。そして、なかなか実行に移せない児童には、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れ、実感できるような指導をしていく必要がある。

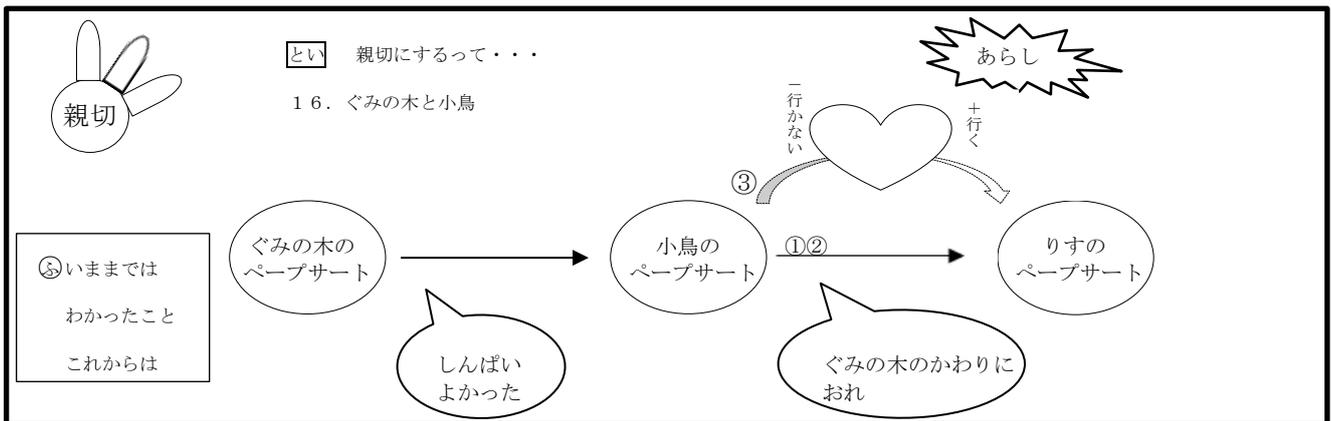
本教材は、りすを心配するぐみの木や、ぐみの実を届ける小鳥の姿から、相手を思いやる温かい心に触れることを通して、ねらいに迫るものである、この教材は、激しい嵐を前に葛藤しながらも、目の前にはいないりすの気持ちを推し量り、嵐の中を飛んでいく小鳥の姿を中心にして、相手のことを考える強い思いやりの気持ちを感じ取らせることができる。「りすを心配し思いやるぐみの木」と「りすだけでなく、動けないぐみの木のことも思いやって大切にす小鳥」「ぐみの木の思いやりと小鳥の親切な行動に感謝するりす」の三者の立場を押さえながら、親切にすることの意義について考えさせることができる教材である。

指導にあたっては、なぜしなくてもいいのに親切にするのだろうと問うことで、当たり前前に考えていた親切について疑問を持たせ、価値の方向付けを図る。中心発問では、嵐の中、りすのところへぐみの実を持って向かった小鳥と、それを受け取ったりすの役割演技を取り入れ、登場人物の気持ちを色で表しながら、複雑な気持ちを捉えさせたい。また、揺さぶりや切り返しの発問をすることで、より多様な考えを引き出し、親切にする側とされる側の両面から考えを深めることができるようにしていく。終末では、親切について分かったことをマッピングに付け足し、「今までは」「わかったこと」「これからは」の3つの視点についてワークシートに記入させ、親切について振り返れるようにしていきたい。

4. 指導計画

- (4) 事前指導…親切ポストやありがとうの木を活用し、日常生活の中から意識付けを図っていく。
- (5) 本時…教材をもとに、「親切、思いやり」の道徳的価値の大切さについて考え、多面的・多角的に理解させる
- (3) 事後指導…日々の生活において、親切ポストを活用し、見つけた親切やされた親切を賞賛し、道徳的実践意欲と態度を育む。

5. 板書計画



6. 授業テーマに迫るための手立て

- (1) ハートカードの思考ツールを活用し、葛藤している気持ちを色や言葉で表現できるようにさせる。(手立て1)
- (2) マッピングを活用し、自己を見つめ、価値への理解を深めさせる。(手立て2)

7. 学習過程

段階	学習内容・活動 ◎中心発問	時間	○指導上の留意点 ※手立て ◆評価
気 付 く	1 親切とは何かを考え、本時の問いをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">とい 親切にするってどういうことかな。</div>	5	○親切というテーマから思い浮かぶ言葉やできごとを、花びらのようにどんどん書かせる。 ○親切はよいことではあるが、義務ではなく、しなくてもいいということも確認しながら、本時の問いにつなげさせる。
見 つ め る	2 「ぐみの木と小鳥」を読み、話し合う。 (1) ぐみの木、小鳥、りすの三者それぞれの思いやりや親切について話し合う。 ・ぐみの木が小鳥に実を分けた。 ・小鳥がぐみの木に代わってリスへグミを届けた。 ・小鳥は嵐の中でも何回も行った。	10	○あらかじめ登場人物の確認をし、ペープサートを活用して話の流れをつかみやすいようにする。 ○「親切にしている登場人物は何人いるか」「どんな親切をしているか」という視点を意識させる。 ○ペープサートや動作化を取り入れて、価値について多面的・多角的に考えを深めさせる。
伝 え 合 う	(2) 地面にたたきつけられそうになりながらも、力をふりしぼって飛び続ける小鳥の葛藤する心の気持ちを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">◎嵐の中、どうして小鳥はリスのところまで飛び続けることができたのかな。</div> ・りすのために ・自分がやるしかない ・いたい ・もどろうかな ・どうしよう ・がんばるぞ	15	※登場人物の気持ちをワークシートのハートカードに色で表して考えることで、葛藤している気持ちを捉えさせ、ペアで見せ合うことで多様な考え方に触れさせる。(手立て1) ○りすと小鳥の役割演技を取り入れ、親切にする側とされる側の両面から多様な考えを引き出していく。 ○なぜそう考えたのか、それについてどう思うか等、全体で話し合う活動を取り入れ、子どもの発言に「別に親切にしなくてもいいのでは」「友達じゃないのに」等切り返したり、揺さぶったりしながら、価値への理解を深めさせる。
	(3) 小鳥、ぐみの木、りすのように親切にしたり、されたりした経験について話し合う。 ・けがをしたときに保健室に連れて行ってくれた。 ・忘れ物をした時に助けてくれた。	5	○中々思い出せない児童のために、過去に学級の親切ポストによせられた親切を紹介する。 ○親切についての自分の経験を、ワークシートで振り返らせる。
振 り 返 る	3. 「親切」について振り返る。 (1) 「親切」について分かったことを、ワークシートのマッピングに付け足していく。  (2) 「親切」について、これまでの自分や、自分の生活に生かせることを考え、振り返る。 ・いままでは ・わかったこと ・これからは	5  5	○本時の問いを再確認する。 ※マッピングや振り返りの3つの観点を使って自己評価を可視化することで、価値の深まりを自分で実感させ、実践意欲を高めさせる。(手だて2) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">◆親切にすることのよさや大切さについて考えを深めている (発言・ワークシート)</div>

第3学年1組 道徳科学習指導案

日時：令和4年10月11日（火） 第2校時  
場所：3年1組教室

授業テーマ	グループでの話し合いにより、一人一人が考えを出し合い、価値を自分事として捉え、「広い心」をもって人に接しようとする心情を育てる授業
-------	---

- 1, 主題名・教材名 広い心で ( B-10 相互理解、寛容 ) 「わたしだって」
- 2, 主題のねらい 失敗は誰にでもあり、それを許す心も必要であることが分かり、「広い心」のよさを理解し、誰に対しても「広い心」をもって接しようとする。
- 3, 主題設定の理由

人の考え方や意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを相互に認め合い、理解しながら高め合う関係を築くことが大切である。人と人とを好ましい関係にする土台は互いに理解し合うことである。目に見えての行為だけでなく、その思いや心までも理解しようとする必要がある。相手の状況を自分と重ねて考え、自分にも同じ様な経験がある、自分も同じ思いをしたことがある、自分も同じような失敗をするかもしれないと分かると、同じ失敗でも、「仕方がない」「懸命にやった結果だった」など見方や考え方を広げることができる。しかし、他人の失敗で自分が迷惑を被ることになれば、失敗を許すという心を持つことは難しい。「たまたま今回失敗したのは相手であって、もしかしたら自分の失敗で、立場が逆転していた場合もあるかもしれない」と考えられるならば、相手を許すこともできるようになる。多様な考え方を認め、自分が完全な人間ではないと自覚し謙虚な気持ちを持つことで、寛容さが生まれ、「広い心」を持って他人と接することができるようになると考えられる。

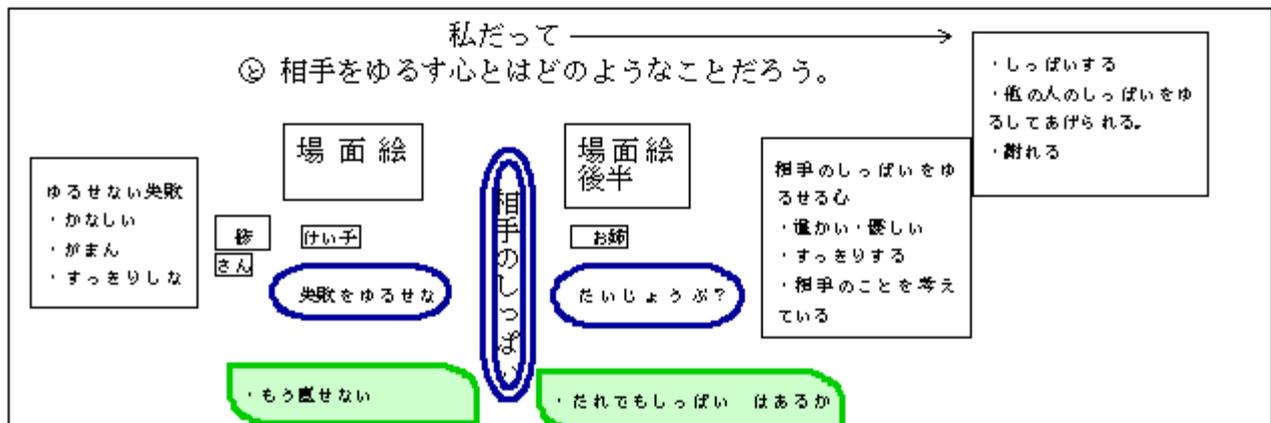
本学級の児童は、当番活動を協力し合って進めたり、イベント系の提案に応じて休み時間のドッジボールを楽しんだりするなど、友達と仲良くしようと進んで行動する姿が見られる。しかし、その一方で、自分の思い込みで友達に接し、悪気がなくてもその言動で相手を傷つけてしまい、誤解が生じてしまうこともある。けんかや仲直りの経験から「謝ること」「許すこと」がよりよい関係を作るために必要なことは分かっているが、謝ったら許すものという表面的な理解にとどまっている児童も多い。相手を許そうという広い心はどうして生まれるのかを考えさせ、相手の思いを理解しようとすることの重要性に気付かせていきたい。

本教材は、大切な作品を友達の不注意によって汚された主人公の心の変化がよく表れており、子どもたちと共に謝罪する側とされる側の両方の気持ちを考えることができる内容である。大切なものを汚された時の気持ちは、子どもたちにも分かりやすく、どんなに謝ってもらっても心から許す気になれないという主人公の気持ちに共感する児童は多いと考えられる。しかし、もう一方で、自分が失敗した側に立ったときに、広い心で許してもらえたならば、どんなに安心できるかという主人公の経験にもまた、共感することができる。対比的なそれぞれの立場について考えることを通じて、「広い心」について、多面的・多角的なものの見方をするを期待できる教材である。

指導にあたっては、アンケートから、他人の失敗により嫌な思いをした経験をふり取り、「問い」を導き出したい。作品を汚された主人公の気持ちを捉え、同様の経験への共感を引き出したい。また、謝罪する立場でありながら、逆に謝られた主人公の気持ちと、本来謝る立場ではないお姉さんの行動から、「広い心」について話し合わせたい。資料を読み取る際には場面を分けて扱い、謝罪される立場と謝罪する立場を対比させていきたい。「広い心」について話し合う際には、小グループでの話し合いの時間をとり、児童の一人一人が考えを出し合い認め合える場としたい。ふり返りの場面では、ワークシートを活用し、自分はどう行動していきたいか、具体的に考えさせ、実践意欲を高めていきたい。

- 4, 指導計画
  - (1) 事前指導…アンケートで他人の失敗で迷惑を受けた経験を把握しておく。失敗を助けてもらった経験をありがとうカードに記入したりして、意識付けを図っておく。
  - (2) 本時……教材をもとに、「広い心」の道徳的価値の大切さについて考え、多角的に理解する。
  - (3) 事後指導…日々の生活において、道徳的実践意欲と態度を育む。

5, 板書計画



6. 授業テーマに迫るための手だて

- (1) 「失敗を許す心」とはどんなことなのか、グループで話し合うことを通して、児童が自分の考えを出し合い、多面的な見方に触れることができるようにする。(手立て1)  
 (2) 「わたしだって」の後に入る言葉を書く活動を「振り返り」の場としてを設定することを通して、本時の価値を自分事として捉え、進んで実践しようとする意欲を高める。(手立て2)

7. 学習過程

時	学習活動・内容	時	○指導上の留意点 ※手立て ◆評価
気付く	<p>1. 友達の失敗が許せなくて嫌な気持ちになった経験について話し合い、本時の問いを知る。                      ・許したいと思うが、悲しかった。</p> <p>◎ 相手をゆるす心とはどのようなことだろう。</p>	5	<p>○ 児童の経験談から「問い」に導びく。</p> <p>○ すっきりしない気持ちを許そうと思う気持ちへ変えるには、どうすればよいのかを考えさせる。</p>
見つめる	<p>2. 資料「わたしだって」を読み、失敗を許す心について考える。                      (1) 資料「わたしだって」(前半)を読み、ずっとだまっているけい子の気持ちを考える。                      ・もう、直せない。どうしよう。                      ・謝っているから許してあげたいけれど、できない。                      (2) 資料「わたしだって」(後半)を読み、けい子とお姉さんの違いを考える。                      ・失敗は誰にでもあるものだ。                      ・反省しているなら失敗を責めても仕方がない。                      ・だから先に謝っているんだね。</p>	10	<p>○ 教材の内容を把握させるために、電子黒板を活用する。主人公の立場や気持ちが捉えやすいように場面絵を提示する。                      ○ 不注意で迷惑を被った立場のけい子のすっきりしない気持ちを捉える。                      ○ 許したいと思うが、どうしても許せない気持ちに共感させる。                      ○ 謝っている修の気持ちも捉えさせる。                      ○ お姉さんは、どんな気持ちで、先にけい子に謝ったのか考えさせ、ワークシートに書かせる。                      ○ けい子もお姉さんも共に不注意で迷惑を受けた立場であることを確認し、二人の違いに気付かせていく。                      ○ 失敗は誰にでもあることで、相手を許した方が互いにすっきりすることに気付かせる。                      ○ お姉さんの寛容な気持ちに共感させる。                      ○ 翌日けい子が修にいう言葉を考えさせる。</p>
伝え合う	<p>3. 「失敗をゆるす心」とはどんな心か、考え、話し合う。                      (1) 「失敗を許す心」がどのような心だと思えるか、なぜ、許すことができるのか考えを付箋に書き出す。                      ・もし自分が失敗したらと考えられる心                      ・友だちのことを思える心                      (2) グループで話し合う。                      (3) グループで話し合った内容について確かめる。</p>	15	<p>○ 相手の失敗を許せる心とはどんな心か、考えさせる。                      ○ 児童一人一人に考えを出せるように付箋を使用する。                      ○ 書き表すことが難しい児童には、「～したら～できる心」の様に文型を提示する。                      ○ 台紙に付箋を貼りだし、グループで自分の考えを話し、似ていることは何か比べる。                      ※「失敗を許す」とはどんなことなのか、グループで話し合い、児童が自分の考えを持てるようにする。(手立て1)                      ○ 相手の立場に立って考えられ、失敗を許すことができることをを広さで表した言葉が「広い心」であることを理解させる。</p> <p>◆ 「広い心」とは、相手の立場に立って考え、失敗を許すことができる心であると理解することができたか。(発言・付箋)</p>
振り返る	<p>4. 自分の生活をふり返り、「わたしだって」に続く言葉を話し合う。                      ・自分の生活を振り返る。                      ・友だちに机に墨をつけられてしまったが自分も間違えることがあるので、許してあげる。                      ・友だちが水彩で汚れた水をこぼしたが、自分も間違えるかもしれないので許してあげる。</p>	10	<p>○ 「今までは～だったけれど、これからは～したい」などの文型を提示して、書き表し易いよう支援する。                      ※「広い心」について分かったことや考えが変わったことを自分事として、どのように生かしていくのか書くことにより、実践意欲を高める。(手立て2)</p> <p>◆ 自分も失敗するという謙虚さを持ち、相手の立場を考えると「広い心」のよさを理解し、「広い心」で行動しようとしているか。(ワークシート)</p>

# 第4学年 道徳学習指導案

日時：令和4年6月20日（月）第3校時  
場所：4年2組教室

授業テーマ	登場人物にあったことを自分に置き換えて考える学習を通して、相手の心を思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てることのできる授業
-------	---

1 主題名 思いやりのリレー (B-7 親切、思いやり) 教材「かさ」

2 主題のねらい 相手の心を思いやり、進んで親切にしようとする。

3 主題設定の理由

中学年になると、学校生活を中心として友達同士の交流が活発になり、人との関わりも次第に増えるようになる。その際、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるよう、相手に対する思いやりの心をもって接することが大切である。児童には、そのような関わりを通してよりよい人間関係が築かれていくことに気付かせ、進んで人に親切にしようとする態度を養うことができるようにしていく。

本学級の児童は、係や当番ではなくても、「友達が大変そうだから」と言って自分から仕事を手伝ったり、問題がわからず悩んでいる友達がいると、解き方を教えたりすることができる。しかし、仲のいい友達や同級生以外の、普段あまり関わりがない人に対しては、恥ずかしがってあまり積極的になれず、思いやりや親切の及ぶ範囲がやや限定されてしまう傾向にある。そこで、相手との関係にとらわれず、相手の立場に立って考え、困っている人には進んで親切にしようとすることの大切さに気付かせたい。

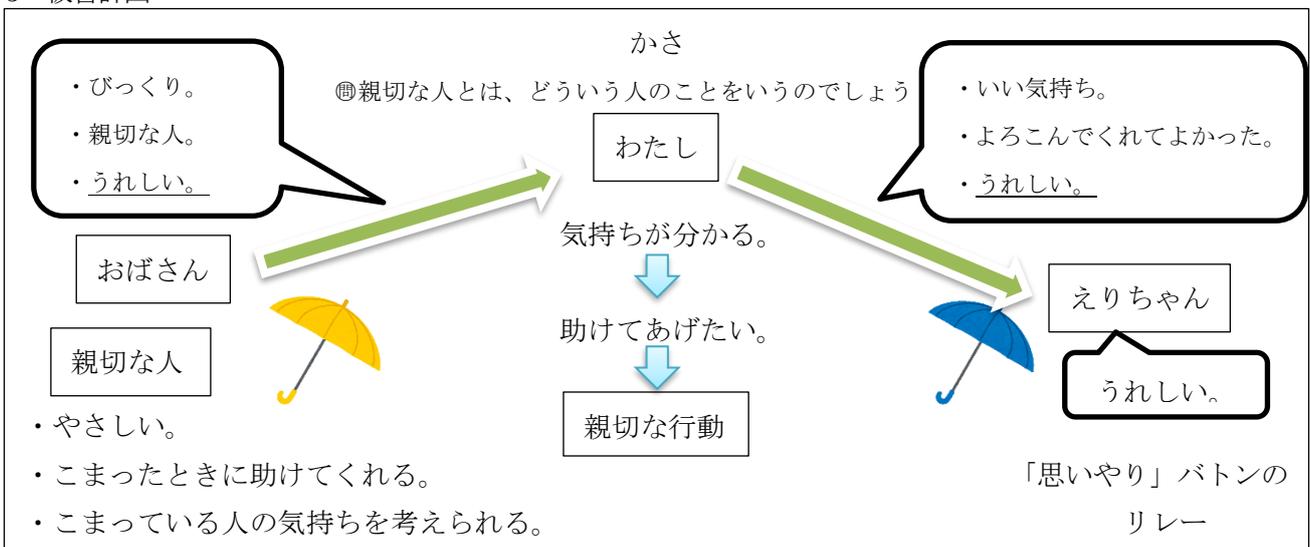
本教材は、「わたし」が雨に濡れて困っていたところ、知り合いのおばさんが通りがかり、傘を貸して親切にしてくれる。次の日、わたしが学校から帰ろうとすると、傘がなくて困っている下級生を見つけ、今度は自分から傘を貸してあげたという話である。下級生に傘を貸す前、「親切」という行為の前に「相手の気持ちを思いやる心」が働いたことに気付かせたい。「傘を貸す」という親切ができたのは、相手の状況から気持ちを想像し、自分になにかできることはないか、考えることができたからである。また、本教材には、自分が今まで受けてきた親切に気づかせることで、感謝の気持ちをもつことの大切さにも気付かせることができるという特徴もある。

指導にあたっては、「自分になにかできることはないか」「自分だったらどうしてほしいか」と、相手を思いやることの大切さについて考えさせたい。しかし、親切は、相手を思いやる心から発するものであり、相手の気持ちを考えていない場合は本当の親切とはいえない。自分勝手な思い込みや、褒められたいがための親切は親切といえるのかを、問い返しながら深めさせていく。

4 指導計画

- (1) 事前指導・・・帰りの会に、「友達のいいところを見つけよう」を発表したり、相手のために進んで行動を起こした児童を賞賛したりして、意識付けを図っておく。
- (2) 本時・・・教材をもとに、「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」の道徳的価値の大切さについて考え、多角的に理解する。
- (3) 事後指導・・・日々の生活において、道徳的実践意欲と態度を育む。

5 板書計画



6 研究テーマにせまるための手立て

【手立て1】「わたし」の心の変化について、視覚的にわかりやすいよう板書にまとめる。

【手立て2】導入を振り返り、始めに考えた「広い心」を見返して、再度その意味と大切さについて考えさせるために、ワークシートを使用する。

7 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ※手立て ◆評価
気付く	<p>1 「親切な人」について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>問「親切な人」とは、どんなひとのことかな。</p> </div>	5分	<p>○教材を読む前に「親切な人」について考えさせる。</p> <p>○友達や下級生が傘を忘れて困っていたときに、自分だったらどうするかを問いかける。</p>
見つける 伝える 合う	<p>2 教科書の範読を聞き、話し合う。</p> <p>(1) 傘を貸してもらったとき、「わたし」はどんな気持ちになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・びっくりした。</li> <li>・うれしかった。</li> <li>・親切だな。ありがとう。</li> </ul> <p>(2) かさを貸してもらう前と後では、「わたし」の中で何が変わったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸してもらう前だったら、えりちゃんが気にならなかった。</li> <li>・貸してもらった後は、相手の気持ちがわかったから貸せた。</li> </ul> <p>(3) なぜ、「わたし」はいい気持ちになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えりちゃんが喜んでくれたから。</li> <li>・えりちゃんの嬉しい気持ちがよくわかったから。</li> </ul>	<p>10分</p> <p>10分</p> <p>5分</p>	<p>○本時の登場人物を示し、簡単に内容を把握させる。</p> <p>○あまり面識がない人から親切にされるのは、当たり前のことではないということを押さえ、「わたし」がどんなに嬉しかったかに気付かせる。</p> <p>※「わたし」の心の変化について、視覚的にわかりやすいよう板書にまとめる。(手立て1)</p> <p>○「わたし」の行動が変わったのは、自分が同じ経験をしているからであることに気付かせる。そして、他人のことを自分のことのように捉えられるようになった心の変化にも気付かせる。</p> <p>○親切は、したほうもされたほうも、共に嬉しくなることに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆自分が親切にされるだけでなく、親切にすることも嬉しい気持ちに気付いたか。(発言、ワークシート)</p> </div>
振り返る	<p>3 「親切な人」について考えたことを振り返る。</p> <p>(1) 「親切な人」とはどのような人だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人の気持ちを考えられる人。</li> <li>・相手が何をしてほしいのかを考えて行動できる人。</li> </ul> <p>(2) 目の前に困っている人がいたとき、自分だったらどうしますか。</p>	15分	<p>○相手のことを尊重し「広い心」で受け入れることによって、お互いこどのような関係が築けるかを考え、相手の立場に立って考えることの大切さに気付くことができるようにする。</p> <p>○目の前に困っている人がいたときに、どう行動するか、自分に置き換えて考えることができるようにする。</p> <p>※導入を振り返り、始めに考えた「親切な人」を見返して、再度その意味と大切さについて考えさせる。(手立て2)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆相手の心を思いやり、進んで親切にしようとしている。(発言、ワークシート)</p> </div>

第5学年2組 道徳科学習指導案

日時：令和4年7月12日（火） 第5校時

場所：5年2組教室

授業テーマ	主題の多角的な把握と価値を深める振り返り活動を通して、様々な立場の気持ちを多面的に考えさせ、だれに対しても親切にしようとする心情を育てる授業
-------	--

1. 主題名・教材名 親切を生むもの（B-26 親切 思いやり）「藤井駅のホームでのできごと」
2. 主題のねらい 人には、困っている人を見ると放っておけない心があることが分かり、だれに対しても思いやりの心をもって接しようとする。

3. 主題設定の理由

思いやりは、「自分はあるとき苦しかったから相手もきっと苦しいだろう」など、自分の経験と照らして相手のことを自分のことのように感じ、相手を思いやることである。相手のことを自分のことのように考えるからこそ、その思いが伝わった相手は喜びを感じ、またその姿を見て自分も喜びを感じるのである。このような心の理解を深めることで、人を思いやる心のすばらしさに感動し、その心をもとに自分も行動しようとする意欲を高めることができる。

本学級の児童は、困っている友達のために気づいたことを進んで行動に移したり、やるべきことを行うためにお互いに声を掛け合ったりすることができる児童が多い。しかし、どの場面でも、誰に対しても親切心を発揮して行動できるわけではなく、「親切」の範囲が限定的だったり、周囲の雰囲気に流されて気づいていても実行できなかつたりすることも多く見受けられる。また、親切な行動はできても、親切な行為をすることの良さまで、意識して行動している児童は少ない。そこで、だれに対しても思いやりの心をもって行動しようとする心を育てることが重要である。そのためには、困っている人を見ると放っておけない心の存在に気づき、その心が自分の中にもあること、「親切」が相手の喜びだけでなく自分の喜びにもつながることを知る大切である。

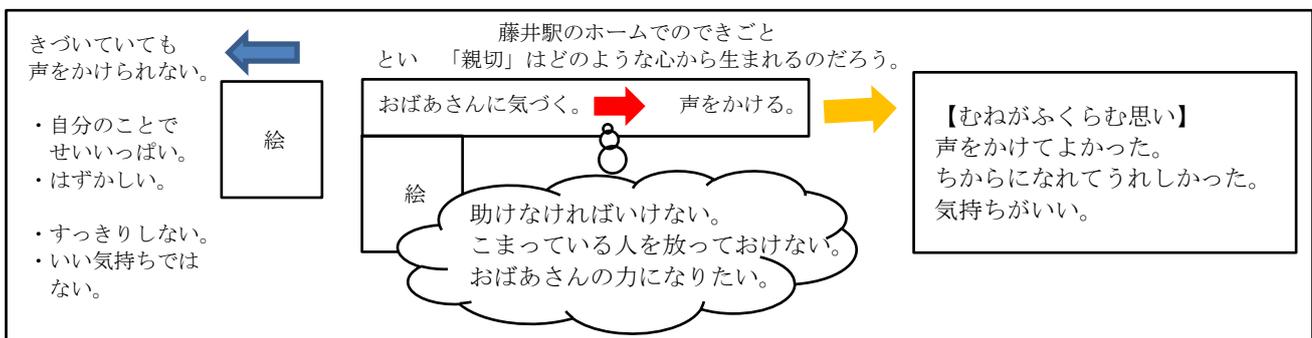
本教材は、駅のホームで電車を待っていた「わたし」が、向かい側のホームに困った様子のおばあさんがいることに気づき、何とかしたいと母に相談し、おばあさんに声をかけるという話である。「わたし」は、感謝の言葉を述べて去っていくおばあさんの後ろ姿を見ながら胸がふくらむような思いを抱く。「わたし」や母の行為の端々から、おばあさんのことを自分のことのように考え、おばあさんが喜ぶ姿を見て自分もうれしく感じていることが伝わってくる。人には「困っている人を見ると放っておけない心」があることに気づくことができる教材である。

指導にあたっては、困っている人に対する周囲の人々の立場や思いについて、多面的・多角的に考えさせるようにする。様々な立場がある中で、「わたし」は困っているおばあさんに気づき、母に相談し、二人はおばあさんに声をかけた、という部分に着目させる。二人の「親切」な行動があったからこそ、おばあさんの喜びが生まれ、さらに母にも「わたし」にも喜びが生まれているのである。さらに、「わたし」が最後に抱いた思いに着目させ、親切な行為を生む、相手を放っておけない心について考えを深めていきたい。

4. 指導計画

- (6) 事前指導…アンケート「①身近な人が困っていたら親切にするか」「②見知らぬ人が困っていたら親切にするか」を実施し、「親切・思いやり」についての意識付けを図っておく。
- (7) 本時…教材をもとに、「親切、思いやり」の道徳的価値の大切さについて考え、多角的に理解する。
- (8) 事後指導…再度アンケートを実施し、学級内へフィードバックする。日々の生活において、道徳的实践意欲と態度を育む。

5. 板書計画



6. 授業テーマに迫るための手立て

- (1) 主題を多面的・多角的なものの見方でとらえさせる ICT 活用と発問の工夫（手立て1）
- (2) 価値の深まりや意欲の継続、自己肯定感を高めるための「振り返り」の設定（手立て2）

7. 学習過程

段階	学習内容・活動	時間	○指導上の留意点 ※手立て ◆評価
気 付 く	<p>1. 「見知らぬ人が困っていたら親切にするか」について話し合い、本時の問いを知る。</p> <p><b>親切にしない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知らない人だから。</li> <li>・どんな人が分からなくてこわい。</li> </ul> <p>→見知らぬ人でも<b>親切にする</b>人もいる。</p> <p>→なぜ「親切にしよう」と思えるのだろう。</p> <p><b>「親切」はどのような心から生まれるのだろう。</b></p>	5	<p>○事前にロイロノートによるアンケート「①身近な人が困っていたら親切にするか」「②見知らぬ人が困っていたら親切にするか」を実施する。</p> <p>○アンケート結果をグラフで提示し、見知らぬ人に対しては「親切にする」行動をとる人が少ないことを押さえ、本時の問いにつなげる。</p> <p>※学級の意見を可視化することで、本時の主題を多面的・多角的なものの見方でとらえさせる。（手立て1）</p>
見 つ め る	<p>2. 資料「藤井駅のホームでのできごと」を読み、困っている相手を見ると放っておけない心について考える。</p> <p>(1) 困っている人に気づいたけれど、親切にできなかった人の理由と気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことで精一杯だった。</li> <li>・気づいても、恥ずかしくてできなかった。</li> <li>・親切にしている時間が無かった。</li> </ul> <p>(2) 「わたし」やお母さんが、おばあさんに親切にした理由と気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあさんが困っていたから、力になりたいと思った。</li> <li>・困っている人を放っておけない。</li> <li>・相手の気持ちを考えて行動した。</li> </ul> <p>(3) 「わたし」の喜びが生まれた理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあさんに声をかけてよかった。</li> <li>・相手が喜んでいて、自分もうれしい。</li> <li>・感謝されると、気持ちがいい。</li> </ul>	10  8  12	<p>○気づいていない人、気づいても行動できなかった人がいたことを挙げ、それぞれの人の立場にも、理由や思いがあることを押さえる。</p> <p>○「親切にしない」場合、その後どんな気持ちになるかを考えさせる。</p> <p>○「わたし」やお母さんの、相手を思いやる心と行為を分けて板書し、困っている人を放っておけない心が「わたし」にもお母さんにもあったことが分かるようにする。</p> <p>○おばあさんの様子を見た後の「わたし」の気持ちに焦点を当て、「わたし」の喜びがおばあさんの喜びから生まれていることに気づけるようにする。</p> <p><b>◆困っている人を見ると放っておけない心に共感できたか。（発言・ワークシート）</b></p>
振 り 返 る	<p>3. 「親切」について振り返る。</p> <p>(1) 「親切」はどのような心から生まれるのか考え、全体で確認する。</p> <p>(2) 本時の学びから、自分の生活に活かせることを考え、振り返る。</p> <p>4. 教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親切とおせっかいについて</li> </ul>	3  5  2	<p>○本時の問いを再確認する。</p> <p>○本時の板書を全体で確認し、主題に迫るためのキーワードを全体で押さえる。</p> <p>※自らの生活に活かす手立てを考えることを通して、実践意欲、自己肯定感を高めることにつなげる。（手立て2）</p> <p><b>◆困っている人を放っておけない心をもとに、思いやりの心をもって行動しようとしているか。（発言・ワークシート）</b></p>

第6学年2組 道徳科学習指導案

日時：令和4年9月12日（月） 第2校時

場所：6年2組教室

授業テーマ	問題解決的な学習を通して、様々な状況や立場を想定し、多面的・多角的に考えさせることにより、「相手を思う親切」をしていこうとする心情を育てる授業
-------	---

1. 主題名・教材名 相手を思う、とうとい心（B-7 親切 思いやり）「最後のひと葉」

2. 主題のねらい 親切な行為は、人のことを自分のことのように大切に思う心から生まれることが分かり、自分にできる精一杯のことをしようとする。

3. 主題設定の理由

思いやりは目には見えないが、思いやりのある行為は人の心を温かくする。相手の立場に立ち、喜びや楽しみだけではなく悲しみや苦しみも共に分かち合い、相手を知れば知るほど、相手のために何か自分ができることをしたい、何かをせずにはいられない思いがわいてくる。そのような思いが生み出した行為は、人の心を動かしたり、前向きに生きようとする原動力になったりすることもある。このような行為を生んだ心の理解を深めることで、その心のすばらしさに感動し、その心をもとによりよく生きようとする意欲を高めることができる。

本学級の児童は、1年生の面倒を見たり、係や当番の仕事を手伝ったりなど、親切な行為を自発的に行える児童が多い。しかし、自分は良かれと思ってした行為が、相手にとっては嫌だったなど、よく考えずに行動してしまうことが原因で起きる小さなトラブルも時折発生する。また、人数が多いため、「思い」はあっても、それを「行為」として表現せずに人任せにしてしまったり、考えることをせずに場の雰囲気や状況に流されてしまったりする児童も見受けられる。そのため、まずは、Aさんにとって良いことと、立場が異なるBさんにとって良いことは違うし、衝突してしまう可能性があるということを理解した上で、自分を中心とした在り方、考え方から脱却し、様々な視点からものを考えることができるようになることが大切である。この「様々な視点」とは、「多様な立場に立って、多様な場合を想定する」ということである。

本教材は、病気で生きる気力をなくしているジョンジーのために、ベアマンという老人が自分の命を懸けて助けようとした話である。一見すると、ジョンジーが助かったことを喜ぶハッピーエンドの話に思うが、見方を変えると一人を助けるために別の一人が死んでいるというバッドエンドの話にも捉えることができる。ジョンジーのことを心から心配し、自分にできる精一杯のことをしようとしたベアマンの思いや行為に焦点が当てられがちであるが、同じ部屋に住んでいたスウや、助けられたジョンジーの立場に立って考えると、果たして良いことだったのか、もっと他にできることはなかったのだろうか。また、例えば、もし物語中でベアマンとジョンジーが逆（つまり老人のために若き画家が死ぬ）だったら、どういう印象になるのだろうか。視野を広げて考えると様々な考え方ができる教材である。

指導にあたっては、ジョンジーの人物像を全体で考えた後、スウやベアマンの立場に立って、「この状況の中で自分だったらどうするか（自分にできること）」をまずは一人でじっくり考えさせる。そして、小グループで話し合うことにより多様な考え方に触れさせる。クラス全体でも確認した後、再度、自分には何ができるかを考え、自身の変容を感じとらせる。このような問題解決的な学習を通して、多面的・多角的に考えさせることにより、独りよがりの「親切」ではなく、様々な状況や立場を想定しながら、「相手を思う親切」を心掛けていきたいという思いを高めさせたい。

4. 指導計画

(9) 事前指導…アンケートを実施し、「親切・思いやり」についての意識付けを図っておく。

(10) 本時…教材をもとに、「親切、思いやり」の道徳的価値の大切さについて考え、多面的・多角的に理解する。

(11) 事後指導…日々の生活において、道徳的実践意欲と態度を育む。

5. 板書計画

